

博 労 町 遺 跡

博労町遺跡は米子市博労町の米子工業高校の敷地内で発見された弥生時代から中、近世にかけて営まれた複合遺跡です。

遺跡は地表下1mに埋没している内浜砂州と呼ばれる砂丘の上に営まれており、砂層中に植物が繁茂して安定した環境を示すクロスナと呼ばれる層がありこのクロスナ層で遺跡が確認されました。

弥生末から古墳時代前期では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡の集落跡が見つかり大量の土器が出土しました。古墳後期から奈良・平安時代にかけては大形掘立柱建物跡や区画溝が見つかり、墨書土器や帯金具、石帯が出土しました。

中世の鎌倉時代では大規模な畠跡が見つかりました。近世の江戸時代では、綿井戸が多数みつき綿作が盛んに行われていたようです。

この一帯には砂丘地に埋もれた原始古代からの人々の暮らしがあったことを示す遺跡です。

現在、遺跡は観られませんが出土品は米子市埋蔵文化財センターで見学できます。



博労町遺跡のクロスナ層



中世の畠跡



奈良時代の区画溝等の遺構と墨書土器

